

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

### 第13次連合ボランティア

第13次は、住田をベースキャンプとして総勢67人（日教組16人）の大所帯での活動となりました。日教組メンバーは、大船渡のボランティアセンターから依頼のあった、民家の庭の泥出し、海水に浸かった壁はがし、アパートの石膏ボードはがしなどの活動を行いました。4日目の活動中には、地元日退教東北ブロックの方々からの激励も受けました。



【第13次災害救援ボランティア 日教組メンバー】



【第13次の寄せ書き】

### ◆ 参加者の声 ◆

学生時代を東北で過ごしたということもあり、今回の活動を希望しました。当日にならないと何をするのか分からないというドキドキ感もありましたが、少しですが復興の手助けになったのではと思っています。みんなで東北の復興のために協力していきましょう。

作業の依頼者や現地の方と話をすることで、復興にかかわっていることを実感しました。人とのつながりの中で、ボランティアの意味を、役割を知ることができました。まだまだ復興までには時間がかかります。続けていくことが大切だと強く感じました。

はじめは「4か月もたっているのにこの状態？」と思いましたが、ボランティア活動を通して、少しずつではあるけれども、確実に前進していると感じました。あせらないこと、必要なのは被災地の方々が望んでいることであることなど、貴重な毎日でした。

ちょっと慣れない仕事をして、少しは被災者の役に立つことができたならうれしいです。

「ALL FOR 東日本」みんなは東日本のために。みんなで着実につなげていきましょう。

ひたむきな一步一步の積み重ねを大事に。  
All together now!

実際に自分の目で、現地の様子を見たとき、戦時中の爆心地のような光景に圧倒されてしまった。

今、被災地が必要としているのはマンパワーである。復旧・復興は長期戦になることは間違いない。被災地の復活への思いのこもったバトンを、一致団結して仲間をつないでいくことが大切である。

一人ひとりができることは、ほんのわずかなことでしかありません。しかし、被災者の方々の目線で活動を続けていくことは、復興へむけての確実な一歩となるに違いありません。

その歩みが止まらぬよう、しっかりとつないでいきましょう。

たくさんの人の「つながり」を実感し、「東北支援」というより「自己支援、自己成長」の機会を得たように思います。

道は険しく厳しいですが、この、人の「つながり」があれば、いつかは必ず完結すると思えました。また来ます。

いい経験をさせていただきました。

メンバーと一丸になって活動できたことに感謝します。「津波てんでんこ」の教訓を、学校現場で活かすことができるように伝えていきたいと考えています。

積極一貫、がんばろう。

今回、ボランティア活動に参加して大事だと思うことは、今経験したことをいかに仲間・子どもたちに伝えていくかということです。このボランティア活動の裾野を広げ、継続させていくためにも、今回の参加が自分自身にとってボランティア活動のスタートだと感じています。

2回目の参加になりました。今回も素敵な仲間にも囲まれ、安心して活動にとりくむことができました。一方でボランティアの力はまだまだ必要だと痛感しました。1日も早い復興を願っています。

いきる…自分ができるところをやっていこう  
つながる…共に支え合い、わかりあい  
みちひらく…復興、そしてみんなの笑顔  
私は今回の活動で、同じ志をもった仲間、そして東北とつながることができました。これから生きていくうえで、このつながりをさらに深めたいと思っています。

想いを言葉に 言葉を形に!!  
明日の笑顔のため、共にがんばりましょう。

白い石膏ボードとの格闘の日々でした。白い作業服とマスクは必需品でした。作業が終わると汗でびっしょり！海からの風が心地よい。被災した地域の人々もみんな力で合わせ、一歩ずつ前進している。

大船渡に着いて、「ここまで片付けるのは大変だったろうな」と思った。初期の派遣団は大変だっただろうね。

最終日に陸前高田を視察した。すべてが破壊されている。言葉がない。ご冥福を祈るだけ。